

第一回ブランド推進委員会概要

平成26年7月16日

自己紹介

- 安藤 長島観光開発の専務。なばなの里の里長をしている。観光、食べ物、花などが専門。
- 諸戸 諸戸林業の代表取締役社長。桑名は思い出深いまち。普段東京にいたので、桑名のいいところを客観的に見れると思う。
- 黒田 名古屋市国際デザインセンター部長。三セク。実家は長島町。
- 伊藤 名古屋工業大学准教授。本日の会議はノープラン。いかにこれまでの委員会とは違うものにするか。多度出身。命がけでなんとかしたい。
- クリス オーストラリア出身。名古屋に20年住んでいる。DJしている。歴史が大好き。

議題

- 伊藤 ブランド推進委員会でブランドのイメージは持ちにくいと思うが、他自治体では、シティプロモーションや観光誘致など、商業的イベント的なことが多い。まちづくりに必要なのは、医療や福祉のことも新しいブランドの価値になっていく。また教育やスポーツ、農業、水辺の風景や景観など、多岐にわたる桑名の資源がブランドとなる。そしてそれがまちづくりにつながっていく。皆さんにご意見を募っていく。
- 市長 冒頭の挨拶の中で、選ばれるまちにしたいと述べたが、もう一つあって、このまちに住んでいることが、誇りに思えるまちにしたいと思っている。最近シビックプライドという言葉がよく聞かれる。これまで自治体は快適さを追い求めてきたが、いろんな意味で右肩上がりでない世の中のなかで、快適さを向上させるのは難しいのではないかと思っている。そこで大事になってくるのが、このまちが好きだ、このまちを愛している、このまちに誇りを持っている、そういったまちに住んでいると思える自分が好きだと思えることがより大事になると思っている。いろんな面でこの桑名、素晴らしいなあと思える、住み続ける、こんな素晴らしいのなら自分も住みたい、観光に行ってみたい、桑名でこんな面白い農業やっているんならこの農産物を食べてみたいとか、いろんな形で選ばれるといいなと思っている。
- クリス 自分のまちに誇りがありますか。
- 市長 桑名は古い歴史のある桑名と新しく名古屋のベッドタウンとして開発された地区の二つある。おそらく誇りの部分では二パターンあるのではないか。合併しているので、わたし桑名市民なのかしらといったように思う人が多度長島の中にいるかもしれない。ただ合併して10年経つので、新しい桑名市

の誇りを持ってブランド化に取り組んでいきたいと思う。

諸戸 桑名は地理的条件が恵まれたまちである。名古屋から非常に近く、木曾三川の河口にあるという特徴がある。ちょっとはずれると自然も多いまちである。そういった地理的条件をいかした形でまちづくりをすると、ほかにどこにもないような新しい形のまちづくりができると期待している。

安藤 観光の面で、いろんな都市からみえるが、一番安心してお越しいただけるまち、何があってもともかく非常にきれいであるまち、そういうのが大切だと思う。長島温泉自体は全ナガシマリゾート含めて年間一千万人以上の方がお越しにいただいている。ここで気持ちよく安全に、来てよかったなと思っただけのようまず第一に考える必要がある。サッカー、一勝もできなかったが、あのサポーターの人たちが、負けたにも関わらずゴミ拾いをしていたことが世界的に注目をされたこと。長島温泉もそのようにする必要があるということで、ずっと以前から推奨している。従業員は、お客様と会う以外は下を見て歩く。ゴミを拾うことを習慣づけるよう教育をしている。これは会社の中だけでなく、桑名市の市民の方一人ひとりがそういう体制でやっければ素晴らしいことだと思うし、全国的に有名になっていくと思う。

黒田 特徴は水の環境に恵まれている。わたしも輪中で育ったので、水の素晴らしさと怖さと両方体験している。歴史のある水辺の風景を将来どのようなようにつなげていくかだと思うが、これからの若い人たちに魅力のある水辺環境ができないかと、例えばスポーツ、ウォーター関係のレジャーと組み合わせることもいいでしょうし、自然を大事にした風景を残していくのも大切だと思う。何かそういった長期にわたる素晴らしい地理的環境の整備があればいいと思う。ホスピタリティというか桑名の人には穏やかな方が多いと思う。そういうよさがいろんなところで出ればいいと思う。

伊藤 桑名市は景観的にも素晴らしいし、いろんな歴史的背景があります。そういったものをうまくいかしていくのは非常に重要ですが、今回ブランド推進の中で具体的なビジョンを持って描いていくのかをもう一つ踏み込んで出してもいいのかなと聞きながら思った。市長のいる前で無責任な発言だが、出来るか出来ないかわからないかもしれないが、桑名だったらこんなことがやれるんだということをチャレンジする勢いで、どんどんアイデアを膨らませていかないと、既成概念を、今回だったらブランドというもので変えて行こうという市長の熱い思いがあるので、もっとフランクに存分にいきたいと思うのですが。郷里が多度ということもあり、山もきれいで川もきれいでそういうのは残していきたいと思うが、クリスさんが一番思いがあると思うので、突破口としてクリスさんどうぞ。

クリス キーワードの二つはチャレンジとビジョンです。同時にブランディングとして私たちはこれからこうして、桑名のネームバリューを作る必要がある。日本全国や海外からのお客さんが桑名に行きたいという理由を作る必要があ

る。桑名の魅力を再発見しなければならないと思う。桑名の皆さんがもしかして自分も好きなまちかもしれないが、近すぎてみえないかもしれない。隣の芝生が青いということかもしれない。桑名のワン&オンリー、桑名しかないものを出す。全国にそのメッセージを伝える。海外にも伝える。そういったメッセージをだんだん伝えることが大事。歴史文化が素晴らしい。十楽の津という歴史もあるがそういったものを武器として使ってもいい。こういった素晴らしいところもあるし、桑名城もあるし、自然もある。水も山も川もある。何をピックアップするのかをまず考える。キーポイントは食べ物ですか、自然ですか、なんですか。

伊藤 外国人から見て桑名の歴史でこんなのがあったらいいなというのは何ですか。

クリス 東海道の大切なまち。ほとんどの外国人は東海道を聞いたことがある。もともとお城のあるまちですから、そういう歴史のあるまち。外国人が日本のことについて知りたいのは、サムライ、芸者、忍者が有名だがそれだけでなく、文化的なこともたくさんあるけど、キーポイントの一つだと思う。そういった歴史があるから、セールスポイントがあると思う。

伊藤 とにかく名古屋から近い。日曜日クリスさんの番組聴きながら名古屋からすぐ来れる。この近さを名古屋にもっとアピールしてみてもいいと思う。名古屋の人たちに、桑名の様々な点を面をつなげればいいと思う。

クリス 桑名、名古屋、東海エリアで少しずつつながればいいと思う。

諸戸 来ていただいたら楽しんでいただく必要がある。桑名市の場合、観光拠点が点在しているので、そのためのインフラ整備が必要。例えば、日の丸自動車という会社が水陸両用の車を使用して、スカイツリー周辺を観光している。また丸の内という地区を地区内なら自由に無料で乗れるようにしている。こういうことがあると外から来た方や若い方であると、駅からどこかに移動する際、いろいろな拠点を回ることができると思う。

クリス まちづくりが必要と思うか。

諸戸 来ていただくための理由が必要。長島温泉にはその理由がある。長島とは違った魅力を。どうやってアクセスするのかというのが問題。全部車で移動させてしまうとどうしてもポイントポイントで終わってしまう。伊勢神宮のおかげ横丁みたいに歩かせる場所があると近隣も発展すると思う。

安藤 地方からみえるお客さんでゲートから出られるときにこの近辺にどこかあと観光する、立ち寄りにはありますか、という質問がかなりある。桑名市のもろもろの資料が多々置いてあるが、例えば九華公園や六華苑、多度大社など説明する。しかしここはどうやって行ったらいいのかと聞かれる。車じゃないと困る場合がある。桑名駅までバスで行って歩いていく必要がある。多度大社は無理だが。このへんのアクセスの問題も大きい。市のコミュニティのバスを出すといいと思う。

- 市長 アクセスという部分は非常に大事だと思う。諸戸さんが言っていた水陸両用バスは、なばなの里から六華苑に走らせるとここにつくことが出来たりする。桑名はいいところがいっぱいあるが、点在化しているという課題もある。これをどのように乗り越えるか、今日も再認識した。多度は行き方が難しい。桑名からショートトリップみたいなものを作るといったそういうものを考えて、もしかしたらスタートをなばなの里から船なのかバスなのかに乗ってここ（六華苑）について、ここを拠点にあちこち回るようにしたら。
- クリス なばなの里は面白いし、名古屋から熱田から船に乗って東海道の旅、七里の渡まで来て、そのあとなばなの里に行って、一泊して、そのあとは桑名に来て多度大社とかゆっくり楽しんで、また船に乗って名古屋に戻るとかそういうプランをつくとどうですか。
- 伊藤 普段乗らない船とか使うのは非日常としていいんですね。京都の鴨川を船で渡る、またハウステンボスも船で移動させる。まちづくりも日本橋をみていると江戸港が近かったので船を活用しようとしている。名古屋から違う乗り物をもってくるのはありだと思う。あと歩いて楽しいというのもあるが、今は自転車 boom である。多度でマウンテンバイクとか乗ってくる人もいる。市内は自由にどこでも停めることができるようにすればいいし、こういう視点を黒田さん、国際デザインセンターですから海外のいろんな事例があるんじゃないですか。
- 黒田 観光の面でいうと自由度の高いアクセスもそうだが、ツアーみたいにしちゃうのもひとつだし、どこかの拠点から魅力的なツアーとして仕立ててやるものいいと思う。先日テレビを見ていて需要があるんだなと思ったのが、おひとり様ツアーというのがあって、なかなか一人で行きにくい、けどこのツアーの参加者はみんな一人なんです。家族とか夫婦で参加とかじゃなくて、ひとりでも参加できるツアーがヒットしている。クリスさんみたいな歴史大好きなおたくみたいな、あるテーマに深掘りしたようなものを提案するのもいいと思う。紹介してくれる方、ナビゲーターとかその場所をより掘り下げて説明してくれたり、インストラクターや地元の人でも詳しい方がいっぱいいると思うので、来る方も、なばなの里も年齢層の高いかたもいっぱい来るというお話しだったし、もちろんファミリーもいるでしょうし、いろんな方に対するナビゲーターみたいな人がたくさんいると面白いと思う。
- 伊藤 桑名は、大山田地区ができ、何十年もたったので、高齢化が進んでいると思う。そういった人たちが住みやすく、かつ住んでいるだけでなく、今まで培ってきた技術だとか、技だとかをうまくいかしていくまちにするのも桑名にとって重要なところだと思う。今日もここに来た時に、観光ガイドに案内してもらったが、ああいう方がどんどん活躍できる場をつくるのもブランドとしては重要だと思う。そういう方々が外国人をうまくアテンドする、観光に役立てるといえるのはどうですか。

クリス そうですね、いるとうれしいですね。例えば桑名城が復元されたら、外国人がそれを見るために来るんですよ。桑名城があるために来る、説明するガイドさんがいると楽しくなる、そのお城だけでなく、いろんなところを紹介できる、おもてなし状態ですね。

伊藤 桑名城は復元した方がいいですか。

クリス やっぱ僕はそう思います。このまちの歴史は素晴らしい。もしお城がちゃんと復元するとそれもまちのキャッチの一つになる。全国のお客さんがたくさん来るだけでなく、海外からも来る。特に今年の一月に桑名城本丸御殿の図面が見つかったんですよ。復元につながるかもしれないですね。本物のお城があれば素晴らしいじゃないですか。

伊藤 漫画家の井上雄彦がサグラダファミリアを研究したりしている。サグラダファミリアは、完成するかわからないけど永遠に作り続けることで、観光都市として産業都市としてなりたっているが、本丸御殿も再現するにしても、完成しなくてもいいですよ。作ることに意義があると勝手に解釈している。

クリス 桑名城の話はそのぐらいにしといた方がいいですかね。

伊藤 そういうのがあるとみんなで作る続ける。その過程をひとつのプロモーションとして使っていくのはいい資源の使い方だと思う。いかしていくという話が出たが、桑名城で新しいものを作るのもいいじゃないかということで、新しいものを作るのであれば、こういうの作ったらいいというものはないですか。

諸戸 この話をいただいたときにまちなみを復元するとか、そういった話はよくあると思うので、それは間違いなくよくはなると思うが、それってどうなのかと思うときがある。ある意味正しい方向性であると思うが、倉敷であったり、似たようなことをしているところはあるが、どうせいかすのであれば、それを基準にして、今だったらどうなるのかという観点を入れた方が、結果的に市民の人が使いやすいでしょうし、他から観光でいらっしゃる方も楽しめるのではないかなと思う。例えば東京だと代官山のヒルサイドテラスらへんは、すごく人が来ているが、単に古いまちなみを再現するのではなく、ある程度今でも使いやすいという観点を入れた方が面白いと思う。

伊藤 具体的にどのへんの場所とかあるんですか。

諸戸 川沿いをいかしたほうがいいと思う。旧東海道のあたりなんかいいと思う。いろんな店があるので簡単ではないと思うが、魅力だろうと思う。ヨーロッパでは、保存地区とそうじゃないところをはっきりとわけているし、それが都市自体も魅力となっている。観光客もいっぱいきている。まちなみを維持していくのは大切だと思う。

伊藤 保存、まちなみでいうと、諸戸さんの中だと、桑名高校の前の徳成邸ってあるじゃないですか。ああいうものもうまくいかせるといいなあと思うが、直接違うよと言われるかもしれませんが、ああいうのはどう思いますか。

諸戸 徳成も建物としては面白い建物なので、活用する方法があればいいのかなと思う。

伊藤 活用というのは歴史文化財として保存だけでなく、いろんなビジネス的に使うとか、美術館として転用するとか、福祉施設だとか、いろんな活用の仕方がある。多方面に考えていけばいいと思う。ビジネス的に無理なくいけるんじゃないかと思う。

今メッセージが来ました。ブランド推進委員会顧問である、クールジャパン機構代表取締役社長の太田伸之さんからメッセージが来ました。内容は、『日本の優れもの、美味しい食料品、格好良いコンテンツやおもてなし精神をもっと世界に広めようとビジネス計画する企業、技術者、クリエイターを資金面で支援するため、昨秋設立された官民投資ファンドがクールジャパン機構、その社長に指名されたのが桑名市出身の私です。全国の市町村には伝統技術を守り、世界市場で十分通用する商品をつくっている会社や組織がたくさんありますが、これをダイレクトに世界に売り込むお手伝いをする、言うならば「地方発世界に」をクールジャパン機構は具現化したいと考えております。桑名市の総力を結集し、桑名の魅力を世界に向けて発信、販売しようではありませんか。』

桑名市ブランド推進委員会顧問 太田伸之氏からいただきました。

そんな顧問の思いも受けて安藤さんいかがでしょうか。

安藤 まち全体に元気がないとダメだと思う。名古屋には大須という商店がある。自分は大須にもかかわっており、今から 20 年前はシャッター商店街だった。今は元気になった。元気がありすぎて日本人が近寄りがたくなったところもあるが、それぐらい若者のまちになっている。大須といえば東京の浅草みたいなまちで、非常にお年寄りのまちで、わたしがかかっていたころの大須のまちはそういうまちだった。今では若い人がいっぱい集まっているまちになった。顧問からの電報にもあったように食べ物とか日々何が売れるのか、ころころ変わっている。唐揚げがブームであったり、少し前はトルコアイスであったり、海外のモノがブームになっていたり、日々進歩している。シャッターが閉まっているところはほとんどなく、ものすごく活性化している。大須に例えれば桑名は寺町通りを中心とした商店街だと思うが、三八市はある程度人もいるが、日々いるかといえばそうじゃない。なんとか活性化できたらと思う。大須の場合は商店街の青年団の連中が非常に苦労していた。桑名の人若い人が結集してかかわっていけば、不可能ではないと思う。がんばってほしいと思う。

伊藤 若者が活気ついてチャレンジできるまちっていうのは、まずはブランドの基本だと思うので、活気ついている例だとかありますか。

黒田 大須はまさにそれで、コスプレサミットとか行われてコスプレの聖地といわれていて、名古屋でいえば鶴舞公園もコスプレの人たちがそこで、写真をと

ってくる。モニュメント的な建物もあるとか、非常に面白いシュチュエーションが作れる場所である。桑名も素材としていっぱいあるので、名古屋の例をいうと、繊維問屋が集まった長者町というところがシャッター商店街だったが、愛知トリエンナーレというアートのイベントの会場になったりして、そういう何かいろんな若い人を呼び込むような要素が出来はじめると、もともとそこにいた人だけでなく、外から人が集まってきて住みつくこともありますから、何か吸引力になるものがあるといいと思う。私が働いている国際デザインセンターというところもナディアパークという矢場町という場所なので、栄に隣接していて立地はいいんですが、ナディアパークが出来るまでは、通りから一本入ったところで、若い人も寄り付かないちょっと危ないようなところだった。ところが一つのシンボリックのビルができることで、どんどん若い人が来るようになって周辺の店が一変してしまった。こんなにまちは一つの何かが出来ること、変わるんだという実体験をしている。何かキーになるものがあると相当変わってくると思います。

伊藤 国際デザインセンターが行っているループって事業ありますよね。若手のクリエイターたちがいきなり栄とかでは店が出せないの、安い賃金でお店を出せるように、チャレンジできるようなそういった場所を提供する。

黒田 伊藤さんにご紹介していただいたようにこれから自分たちでビジネスしていきたいと思っている若いクリエイターたちに半年間、ショップスペースを提供し、賃料は名古屋市が負担している。その人たちは若干の負担金だけで自分のお店としてそのスペースを持って、お客さんと接する体験ができる。そこで本格的にお店を持つとか商品を作って、バイヤーを見つけるとか、そういうチャンスを与える場所として、いろんなデザイン面のアドバイスをデザインセンターとしてやっていく、あと、一番大切なのは広報のところ。このお店の存在を知ってもらおうというのが一番苦労しているところで、いろんな媒体に取り上げていただく、特にイベントやったり、雑誌社に情報提供したりしているの、徐々に認知度はあがって、リピーターというかファンもついてきている。

クリス 例えばおかげ横丁みたいなところがあればぴったりだと思う。そのまちがにぎやかになるし、若い人も集まるし、にぎやかになる。

黒田 もともと歴史のある城下町を新しく若い人が自分たちの面白いグッズを売ったり、非常に景観としては歴史的な感じで懐かしいんだけど、中でやっていることは非常に斬新で、アーティストがやっていたり結構いろんなところで事例があると思うが、それが桑名ならではの何かがあればいいと思う。桑名では和菓子が結構いいと思う。和菓子は女性にも人気があり、お茶の文化も和菓子みたいなのところがあって、いろんなお店が探訪できるようなことが出来ればいいと思う。

クリス 戦争のころに桑名市が空襲されたから昔のまちなみがあんまり残っていな

いし、同時に1959年の伊勢湾台風でも古い建物が、まちなみがなくなったから、おかげ横丁みたいなのところが出来れば、昔のまちなみが桑名に戻ってくるプロジェクトが、にぎやかな注目ができる場所ができる、いろんなお客さんが興味あるんじゃないですか。

伊藤 あるでしょう。多度出身だからいうわけではないが、子どものころ小学校に通っている道には、大黒屋があったり、門前町としてきれいなまちなみが残っていたのに、今はさみしくなってしまった。多度大社は伊勢神宮に次ぐ、天照大神の弟の場所でもあり、重要なところだと思う。東京にいたころ、深夜番組の中で、世界で日本の十大祭りみたいなのが特集されていたが、その中に多度祭りが出てきて非常に感動してことがある。もう少しそれをいかして、まちなみも含めて、おかげ横丁みたいなものもいいかわからないが、何かチャレンジが出来て、高齢者の方とかもなにかそこでとらえていきたい、それは農業でもいいと思う。一方、この地域に住んでいると、どうやって次にそれをつないでいくか、今やれといわれても困ってしまう。これを違う意味でブランド化していく。今Iターン、Uターンとか田舎に住みたいよと、田舎に住みたいけど会社に通ったり、働く場所がなくなってしまうと困ってしまう。そういう意味で桑名はちょうどいい。田舎っぽいやけどちゃんと名古屋で仕事も出来るみたいな、そうすると農業も出来ちゃう、いろんな切り口にすれば若者も高齢者も融合して、なにかチャレンジできるような面は十分できると思う。とはいっても、もう少しアーバンリゾートというか、名古屋の人が30分40分で来て、それで滞在出来て、もちろんナガシマリゾートや諸戸庭園がありますけれど、点在化している点を線にして面につないでいく、これも大事な話だと思う。なにかホテル的なものだとか、Jリーグ目指しているスポーツもあるので、スタジアム的なものだったり、何か核となるようなものもあったりすればいいと思う。もちろん桑名城もいいと思うけど。10年20年のビジョンになるかもしれないが、ぶっとんでいるものでも市長いいんですよね。

市長 さっきホテルという話が出たが、桑名は、入込客数は県内で2位なんです。普段ずっと1位で式年遷宮の年と次の年だけ伊勢市に負けちゃう。ほとんどナガシマリゾートさんではありますが、来ていただいています。宿泊客でいうと9位に落ちちゃう。あんまり桑名に泊まらない。名古屋に泊まっちゃう。今こっち来る方で、菰野行ってアクアイグニスで泊まっちゃう。泊まってもらえれば歩きますので、いいなと思う。星野リゾートみたいでいいなと。

クリス もし桑名城が復元されたら、全国にたくさんの城があるけど、お城に泊まる事が出来るなんてどうですか。お城に泊まれる場所は日本にはないんです。ヨーロッパに行くとお城に泊まる場所はあるんです。さっき黒田さんが行ったように日本でコスプレがはやっているが、例えばお城に中は見たいだけでなく、一晩二晩泊まれば殿様ごっこができるし、コスプレのような感じにも

出来る。例えば全国のお城の中で、ほんとの桑名城が復元出来て、戦国時代、江戸時代の体験が出来るというのは大きなアトラクションになる。お金が市に戻る。地域の食べ物もサービスする。観光客が注目するポイント、お客さんが行きたい場所になる。お城に泊まって、なばなの里や多度大社に遊びに行くチャンスがある。昔のコスプレも出来ればおかげ横丁みたいなのところも行ける。また参勤交代みたいな大名行列のイベントなんかもあれば、まちももっと楽しくなるんじゃないかな。

伊藤 長島観光から客を取るんじゃなく、もっともっとたくさん来るようにと。
安藤 お城の周りにホテルを建てたりするのはどこまで許されるのかとも思うが、クリスさん言うとおりにヨーロッパではお城に泊まれて、いい経験体験になったりしてますんで、日本人の観光客も非常に多いと聞いている。私が知る限り日本のお城で泊まれるのはないと思う。

伊藤 諸戸さんはいかがですか。
諸戸 フェラガモなんかのグアム島リゾートなんか、村の中の真ん中だけ宿泊施設としてちゃんとしている。ニースとモナコの間にあるまちも、外見は普通のまちなんだけど、中に入ると違う。そういう面白さを出せるといい。お城ですと天守閣がスイートになるのかな。城下町に普通の人たちは泊まる、そういう形になるのかなと思う。

クリス 一般の客さんだけでなく、全国の小学校中学校の歴史文化を勉強するために、桑名に来て桑名城に泊まって、昔の町人はどういう生活をしていたかも勉強出来るし、同時にキャンプ状態で、自分の歴史文化も勉強出来ると、お金が市に来ると思う。

黒田 結婚式場も。

クリス そうですね。いいですね。

伊藤 そういう視点でありますか。

諸戸 ひとつの施設に終わらないというのが楽しい気がします。仮にお城だとしてもお城だけで完結するのではなく、その周りにまちなみとかお土産やさんとか、その他それが大きくなって桑名市全体で楽しめるようになればいいと思う。

伊藤 城の建設やら船を走らせるやら、多度祭り関係で馬まで走らせちゃうとか、おかげ横丁まで出来ちゃうとか、いろいろ意見がありますが、来年からというか今年からというか、すぐにでも出来ることを少し地に足をつけて考えていく必要があると思うが、少なくとも一般的にブランドというロゴマークがあったり、キャッチコピーがあったり、これ見たらすぐロゴマークとわかるようなものが必要だと思うのですが、このへんは市長どう思ってみえますか。

市長 今キャッチフレーズは考えているところです。桑名の10年間の総合計画というのがありまして、そのキャッチコピーはブランドに関するキャッチコピー

ーになるんだと思うが、それを7月28日のブランド元年の市内でのキックオフイベントがあるので、そこで発表させてもらおうと思っている。それはキャッチコピーだけですが。

伊藤 出し惜しみっぼいですね。

市長 いやいや、テーマとしては本物と考えていて、いくつか案を考えているところです。やはりクリスが言ったとおり、お城でも食べ物でも本物をいろんな意味で本物は大事なキーワードになると思っているので、そういうものを表現できるキャッチコピーを考えている。

伊藤 まさに本物の力は桑名の力になるというような感じですかね。伝わってきました。そんなキャッチコピーになるという中で、テーマカラーだとかなんらかイベントをやっている、何かすぐにでも出来ることを見つけていかなければならないと思うが、何かこの部分ですぐ出来るよといった何かありますか。

安藤 例えば間もなく花火大会があります。それが過ぎましたら桑名の石取祭がある。ナガシマリゾートにはいろんな地方から出てきた従業員がいるわけですが、終わったあと、ものすごいまちが汚れている。明るる日、市の方が片付けているんです。でも市の人だけじゃなく、そこに参加した人みんなで片付けるとものすごく経費の削減にもなると思います。花火大会、石取祭のあと、終わったらみんなでゴミ拾いでもしたらいいと思う。きれいなまちづくりから始めたらいいんじゃないかと思う。

伊藤 みんなできれいにするっていうのが当たり前になるっていうのはいいですね。ゴミ一つないまちを目指す。

安藤 終わったらすぐみんなでやる。

伊藤 それこそ本物ですね。

安藤 今ディズニーランドがすごいですよ。実はディズニーが出来るときに、ナガシマリゾートに研修に来ていたんです。長島のスパランドへ行くとゴミが落ちていない。ただ、今では完全に逆転をされました。向こうは王様みたいになっちゃった。ついていくどころか追っかけるのが精いっぱいになった。ゴミをいかにしたらなくせれるかを、彼らがオープンする前、長島に研修に来ていた。みんなで力を合わせて市民の一人ひとり、参加者の一人ひとりがゴミを一個でも拾えばかなり力になるんじゃないかと思います。

伊藤 確かに長島観光さんに行くとホスピタリティとおもてなし力が、従業員一人ひとりされているので気持ちいいんです。単純に観光施設だからとかホテルだからとか温泉だからとかじゃなくて、まちとしても当たり前になってくると、ゴミ拾い一つから始めると。基本中の基本で重要な指摘をいただきました。

市長 花火ですが、花火の翌日に実は早朝5時からゴミ拾いをしています。これは職員だけでなく、ボランティアの方が参加されてやっています。夜が明ける

とほんとにひどいもんです。ものすごく汚くて一個一個拾っていくんですけど、拾っていくと変わってくるんですね。最初はなんでこんなに汚いんだとイライラしてやっているのが、きれいになってくると気持ちもすがすがしくて結構、そういう方たちが桑名のまちづくりにかかわっていく機会だなと思っている。ゴミ拾いみんなでやろうというのは非常にいいきっかけになると思う。ブランドという面においてもね。

安藤 もう一つ医療の話なんですけど、桑名市も医療の整備をされていますが、なばなの里もオープンして16年になるんですけど、高齢者の方も非常に多く、また障害者の方も団体で来るなんて昔では考えられなかった。団体バスでお越しになる。こういった方はハンデがあるので、急にになにか病気になったり倒れられたりすることも多い。実は消防署の皆さんには、ほんとにご厄介になっている。多いときは日に3回も4回も救急車の要請をしなければならないこともある。ただないにこしたことはないが、非常に近いところがあるので、電話したらサイレンの音もすぐ聞こえる。すぐ来ていただけるのは本当にありがたいと思っているが、そこから病院が決まるまでが非常に長くかかる。長い時は30分以上決まらないこともある。市長筆頭にとにかく病院の整備をされています。以前と比べてだいぶよくなったが、もっともっとスピーディーに決まるように桑名市としてやっていただくと非常にありがたい。

伊藤 医療の視点にもブランド化、誇りを持ってやっていける施策もされていますね。今新病院の建設に向けて着々と準備している。救急というのが桑名では非常にネックとなっている。これをなんとかカバーできるよう頑張っている。病院も本物の病院というか、そういう病院を作れるようになっていきたいと思う。

伊藤 そういう視点でどうですか諸戸さん。

諸戸 すぐできるということだとそれぞれの観光スポットが離れているので、駅前で自転車を貸していただけたらと思うのですが、返し場所が複数あるといいと思う。そこで借りて違うエリアまで乗って行けるとすごくいいと思う。フランスではいたるところにいっぱい自転車があるということで借りたときに借りて、またすぐ近くに返すという使い方をしている。

伊藤 駅前ブランドの顔なので、駐輪場がちゃんとあると思うが、自転車が観光目的で使えると魅力的になると思う。

黒田 本物の力をアピールする、キャッチフレーズを考えているということですが、それを市民の方々に浸透させる仕掛けが必要だが、キャッチコピーができたときにどんなふうに市民に視覚化するか、すごく大きいんですよ、デザインの力っていうのは。そこに素晴らしいデザインが入ると注目されるし、そのキャッチコピーが例えばロゴマークとか言い方しますけど、あるいはキャラクターみたいなものもあるのかもしれませんが、露出して注目されることでみんながそれに対して愛着を持つ一番成功の近道だと思う。地元の人たちが愛着を持ってないと外から押しつけてもダメなので、自らがそこにかかわっ

ている意識を持つ。さっきの清掃の話もそうだと思う。例えばきれいにする
ことで楽しいイベントとすれば、花火も楽しいイベントで清掃もすごく意義
のある楽しい体験、小学校の子たちがみんな参加して、達成感を覚えるよう
に仕掛ければ、続くと思う。

伊藤 ブランドとしてなにかデザインをそろえてきて、桑名で売るものとか出荷す
る商品とかがそろってくるだけでよくなると思う。三重ブランドに頼らなく
ても桑名藩は単独でやる、そのぐらいの意気込みでもいいと思う。桑名藩と
いえばクリスさん、外国人から見た日本のよさを語っていただけるんじゃないかと思う。

クリス ホスピタリティ、おもてなしの気持ちは必要ですよ。デザインとかキャッ
チコピーとか関係あるが、注目できるような何か出来たら。例えば東海エリ
ア、名古屋、津とかがテストマーケットになるように、桑名のまちの人が、
自分のまちの魅力が少しずつわかっているように、誇りを感じるような準備
が出来るとベストだと思う。桑名のブランディングとして、自分のまちに誇
りがあると、そのメッセージを伝えることが出来る。例えば毎週一回うちの
番組の中で桑名のコーナーがあれば、クリーン桑名キャンペーンとか、いろ
いろ考えて、そうすると少しずつ東海エリアに桑名の魅力、素晴らしさを伝
えられる。誇りを感じて、愛知岐阜三重の人たちに桑名のまちの魅力を伝え
ることが出来る。次のステップはまちづくりをするとアピールしやすいです。

伊藤 アピールの一つとしてすぐ出来ることを提案するのですが、今桑名の観光パ
ンフレットみたいなのがいっぱいあるんですが、市役所でいっぱいもらって
きたが、かなり多様なものがある。先進的な事例だと出版社と組んで、パンフ
レットを書籍コードつけて売ってしまう。東京とか大阪とか名古屋とかの大
きなショップで平積みになったりする。そうすると一番目につく。パンフレ
ットを配ろうとか、どっかに持っていこうとしなくても、書籍の流通コード
に乗って全国に勝手に流れて、売れたらさらにラッキーだと。もうけも戻っ
てくる。何かあるものをビジネスとして展開するとか、今まで税金使ってや
っていたものを桑名市長お願いします、なんとかしてくださいじゃなくて、
我々一人ひとりが誇りを持ってまちを変えていくんだという、その中でどう
やってもうかるか、とかも考えていくことも重要で、今までみたいに市長な
んとかしてくださいよとか、なにか計画とかアイデアが降ってくるのを待っ
ている時代じゃないと思う。特に元気な人は桑名にはいっぱいいますし、名
古屋や東京で活躍されてみえる方もいっぱいいます。太田顧問からもあるよ
うに自らやれよと、それにみんな乗っかりましょうよ、という思いもある。
最後皆さんの熱い思いを語って締めにしたい。

黒田 いいところはいっぱいあるので、いいところを他の人に知ってほしいという
ことですよ。さっき観光パンフレットのお話しもあったが、今だったら携
帯アプリ、アプリ開発する若い子もいっぱいいるし、デザインやっている方

もいるから、そういう有志がいるから意外とお金をかけずに出来ると思う。実は名古屋でも観光アプリをちょっと絡んでやっている。意外とローコストで多くの人にかかわってもらう仕掛けさえすればできると思う。

伊藤 紙媒体に頼るだけじゃなくて、いろんな媒体を活用していくのはいいですね。
クリス 東海道がありますから、歴史人物パレードとか、ほとんどの有名な歴史人物は桑名に生まれました。秀吉や信長や家康はもちろん本多とか宮本武蔵もこっちに生まれました。その証拠がないかもしれませんが、その有名人が行ったり来たりしたんですから。歴史人物パレードとかを作ると、簡単に全国のテレビ局、ラジオ、新聞とか来ると思う。まちが盛り上がるような宣伝しやすいパレードをつくるといいと思う。このグループは力もあるし、皆さんがたくさん来てくれてうれしいし、情熱があるから。これからサングラスを買ったほうがいいかもしれない。桑名の未来がすごく明るいからサングラスが必要だと思う。

伊藤 そういう意味ではブランドのことは我々だけが考えるんじゃなくて、必要に応じて専門の人たちに入ってきてもらったり、組織が拡大していくことは十分考えられると思うし、そういう位置づけでいた方が皆さんもっともっとブランドに対してやっていくんだという意識にもなっていく。

諸戸 我々の祖先が桑名から出ているという思いもあるので、がんばってもらいたいと思う。どうせがんばるんであれば、日本の中でここだけしかないというまちになってほしい。木曾三川のような特別な立地にあるので、これを最大限に利用する美しいまちにしたらいいのかなと思う。

安藤 クリーンな桑名ということで、花火大会の次の日やってもらうのはいいんですが、当日に掃除をするとすると、なかなか抵抗があると思うが、自分の身の回りがあるゴミを一個拾ってゴミ箱に捨ててお帰りくださいと言っただけでかなり違うと思う。一個だけでなく二個あったら二個拾いますよ。一言終わったあとに言っただけでいいなと思う。当然私どもも協力はします。花火大会は反対の裏面から見ているわけですが、裏正面もすごい人なので、声掛けをしていこうかなと思っている。

伊藤 諸戸さんも長島観光さんも桑名のブランドにがっちり協力いただけるということでよかったですよね。

それを受けて市長。

市長 長時間熱心に議論していただきありがとうございました。桑名でブランドというと絶対出てくるキーワードがあって、一つは「はまぐり」、一つは「石取祭」これがまったく出てこなかったというのは画期的だと思う。それだけ桑名の魅力に多様性があるって、いろんな目で見ると、こんな素晴らしいところがあるのか、こんな面白い視点があるのかと、今日は改めて勉強させてもらったと思う。いろんな夢を語っていただきましたし、こういうのが本当に出来るのかということも含めて、これからこのブランド推進委員会で議論して

いくことになると思う。大きい夢を語っていただくと同時にすぐできること、先ほどのキャッチフレーズが出来たらちゃんとロゴマークを作ったらとか、カラーとか決めたらいいんじゃないかとか、また地道に住民の人と一体となってゴミを拾うとか、地域のことをやるとか、近隣に対してしっかりとPRしていく。そのようなこともしっかりとやっていながら桑名というまちを人から選んでもらえるまちにしていきたいと思います。今日はありがとうございました。これからもよろしくお願いします。